

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ありすの家こどもデイサービス小倉北（児童発達支援）		公表日		2026 年 3月 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20	80	その日の利用者さんによって スペースの作りかたなど工夫できる事は最大限している。事前にスタッフ間で打ち合わせをし、スタッフの動線も確保をしつつ安心安全に支援が進められるようにしている。ワンフロアなので、クールダウンや体調不良、個別活動等、個々のお子さんへ対応できるよう適宜、マットやベッドの配置、また仕切り等でスペースの確保につとめている。	物理的にかなり窮屈ではあるので、引越しを見据えて先々を考えた方が良い。利用人数が多くなると狭い。医療物品も各児多い事ため、安全面を考えるともう少しスペースが広いと安心
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80	20	医療的ケア児が多い日には、パート看護師を配置し適切に対応している。担当を決め、支援しやすいよう工夫している。情報共有に努めている。	送迎時の人員が課題。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80	20	キッズスペースで遊ぶお子さんのため、事前に好みの玩具をチョイスしている。一部屋の中での生活空間のため、活動によって空間設定を変える工夫をしている。立位ができるお子さんの高さに合わせて手洗い場が設置してある。玄関出入口は、バリアフリーになっていて、玄関から飛び出さないよう、中玄関として鍵付きのスライドドアが設置してある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	40	60	収納が少ない中、棚を作成したり工夫して収納している。活動によって空間設定を変える工夫をしている。使い終わった物を定位置へすぐに片づける等、常に整理整頓しフロアで心地よく過ごせるよう配慮している。イベント等では、お子さんの活動場所や動線をスタッフ間で事前に確認し合い、スムーズに行えるよう心がけている。	物が多い。整理整頓が課題。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	40	60	仕切りとマットで空間を分けて工夫している。目で見てわかるコーナー遊びをセッティングし、その日に利用するお子さんに合わせて環境を整えている。	個室が無い
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	40	60	スタッフ間で、支援の振り返りをし情報共有に努めている。	意識が偏りがちになる点がある。統一した意識を持つことが課題。各専門職種同士で行うことが多いため、全体で共有する時間を増やす改善が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	保護者への関わり方の統一ができています。保護者間の交流の場として、親子会を開催した。	評価表結果を基に業務改善内容を話し合い、改善していくことが必要。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	80	20	都度、話し合いにより改善策を考えている。月の定例会ではスタッフ全員が主体として参加し、課題や対策を話し合い業務改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	100		第三者の評価を受ける機会をなかなか設ける事が出来ていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100	0	会社全体の専門職種グループがあり、定期的にミーティングや研修を行っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100	0	ホームページに分かりやすく掲載している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100	0	アセスメントを丁寧に行うよう心がけている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	各専門職種同士で検討を行い、共有している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	共有が不十分な所があったため、見直しを行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	60	40		現在思案中。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	80	20	ガイドラインに沿って行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100	0	各専門職種と共有し、立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100	0	子どもの状態や発達に合わせて様々な方法で活動している。成長段階や特性に配慮しながら、個々の活動のねらいを決め行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100	0	こどもの状態、発達に合わせて個別と集団の活動構成をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	60	40		時間の工夫が必要
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80	20	日々、支援の振り返りを行っているが、必要な時はその都度、情報共有や短時間でのミーティングをしている。	看護面の支援の振り返りが多いため、リハビリや保育の振り返りをつくっていききたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	40	60	医ケア児については、特別な経過はノートを準備し記録を振り返り易くしている。	詳細な記録が残せていない。記録の様式を思案中。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0		半年1回のモニタリング以外にも支援会議で話し合える時間をつくっていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100	0	児童発達支援管理責任者と専門スタッフとで参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	60	40	連携できる体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	60	40		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	80	20	就学前の担当者会議等に参加している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	40	60		まだ積極的に機会を設けていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	20	80	交流の機会はないが、地域の行事に参加している。公園へのお散歩など地域で活動する機会を設けている。	地域との交流はなかなかできていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	送迎時やアセスメント時に状況を伝え合い、共通理解を図っている。送迎の際に、保護者様からの相談事なども話していただきやすい雰囲気づくりを心がけている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	40	60		親子会等で家族が参加できる研修を取り入れたい。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	契約時に運営規定の説明を行っている。支援プログラムや利用者負担の説明を、都度個別に行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	アセスメントを丁寧に行うよう心がけている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100	0	詳しく説明し、同意を得てから支援を開始している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100	0	半年1回の面談や日々悩みの聴き取りを心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100	0	今年度は親子会を2度開催し、交流の場を設けている。きょうだいの参加も多数あった。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	相談があった際は迅速に職員間でミーティングし、対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100	0	活動の様子や過ごし方等をSNSに搭載している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0	事業所での個人情報の保管や取り扱いに十分留意している。SNSの投稿についても事前に説明の上、許可・同意を得て、配慮して投稿している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	話しやすい雰囲気をつくり、傾聴の後に具体的な説明やイメージを伝えるよう心がけている。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	20	80	地域の行事に参加している。	地域住民の招待は出来ていない。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	80	20	訓練を実施し、その様子をInstagramや通信でお知らせしている。年間で訓練計画を立て実行している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	80	20	年間で訓練計画を立て実行している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100	0	アセスメントで確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100	0	食物アレルギーの把握し、提供していない。	医師の指示書はない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	80	20	年間で訓練計画を立て実行している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	40	60		家族への周知徹底が課題。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0		ヒヤリハットの共有・検討が口頭周知の為、今後は些細ことでも記録するよう改善する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	研修に参加している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	80	20	契約の際に説明している。		